

平成31年度入学（推薦入試、帰国子女入試、社会人入試、私費外国人留学生入試）試験問題の出典  
看護学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	－	村山 洋史	「つながり」と健康格差	ポプラ社, 2018年より pp.80－91	ポプラ社

平成31年度 推薦入試  
帰国子女入試  
社会人入試  
私費外国人留学生入試

## 看護学部

### 小 論 文 (90分)

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問に答えなさい。(100点)

皆さんは、ご近所付き合いをどの程度重視していますか。(中略) そもそも日本人はどのくらい近隣と関わりを持っているのでしょうか。

(中略)

もちろん、これには都市部と地方部の違いが存在します。都会では、隣の家の人がどんな人かも知らないという状況がある一方、田舎では否応なく近所との関わりを持たざるを得ないという状況があったりします。しかし、都市部であれ地方部であれ、近所付き合いが年々きほく化している傾向に変わりはありません。

この近所付き合いのきほく化の原因の1つに、日本人の個人主義化が挙げられます。色々な場面でプライバシーという言葉を目にするのも多くなりましたが、「他人に干渉されたくない」「他人のことに干渉したくない」といった考えを持つ人が増えたことは紛れもない事実です。

図1は近所付き合いに対する考え方の変遷ですが、日本人の個人主義化を支持する内容です。

(中略) 1970年代から見ていくと、「なにかにつけ相談したり、助け合えるような付き合い」を望む人の割合は減少し、「会ったときに、あいさつする程度の付き合い」を望む人の割合が増加しています。(中略)

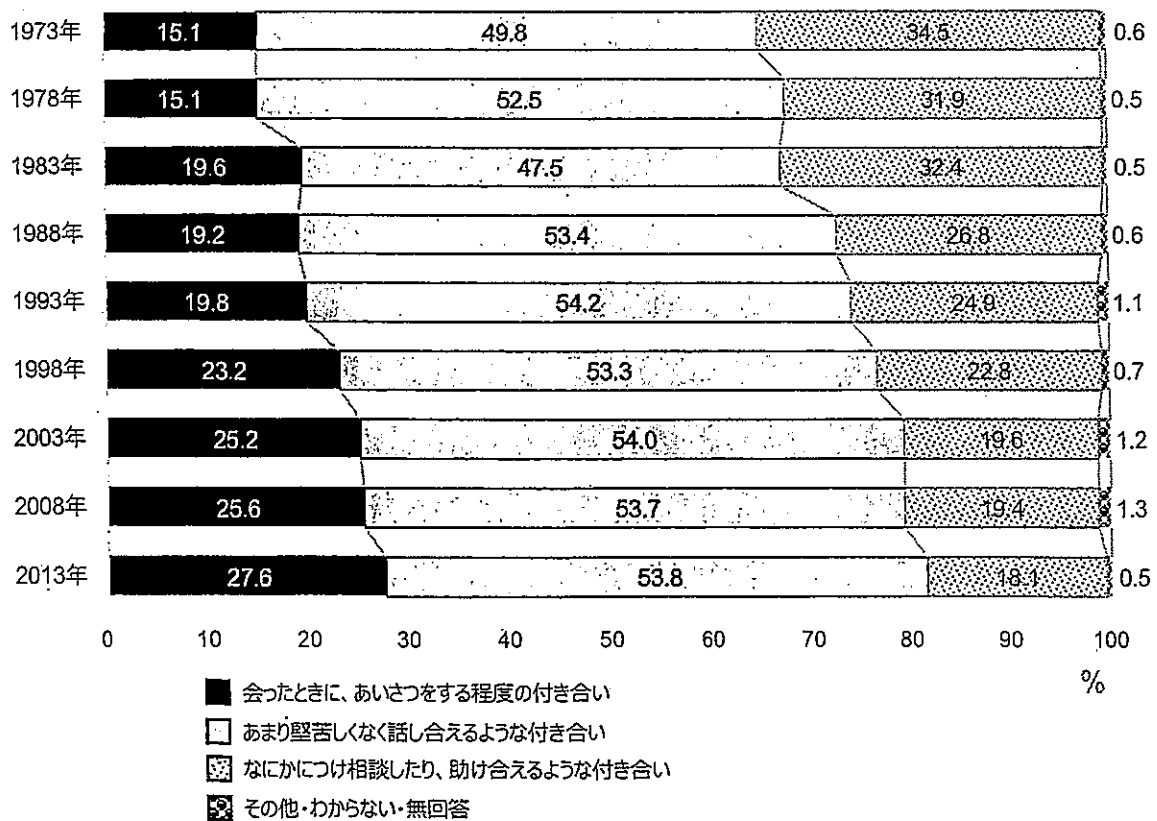


図1 近所付き合いに対する考え方の変遷

出典: NHK 放送文化研究所「日本人の意識調査」(1973-2013)

こういった地域のつながりは、学問分野では「ソーシャルキャピタル (Social capital)」と呼ばれ、政治学、社会学、経営学、都市工学、公衆衛生学など、様々な分野で扱われている@がいねんです。日本語では、「社会関係資本」と訳されます。

ソーシャルキャピタルは、集団の関係性が持つ力のことです。この力は、目に見えず、普段意識されることも少ないため、関係性に潜在する力といえるかもしれません。例えば、(中略)近所付き合いですが、近所付き合いが盛んな地域の方が、ソーシャルキャピタルが高い地域と考えることができます。

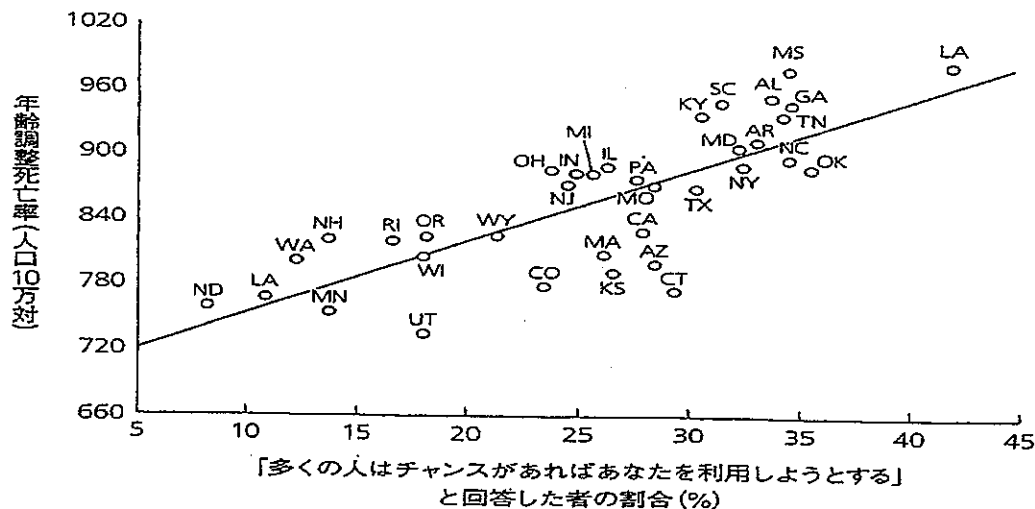
(中略)

公衆衛生学の分野で、ソーシャルキャピタルと健康についての研究が盛んになるきっかけを作ったのは、ハーバード大学の教授であるイチロー・カワチたちの1997年の研究でしょう。

この研究では、アメリカ各州の「人口あたりのボランティア活動の従事者数」や「社会的不信頼(多く人はチャンスがあればあなたを利用しようとする)と回答した者の割合」等をソーシャルキャピタルの指標としています。健康指標は、各州の年齢調整死亡率でした。

年齢調整死亡率とは、集団ごとの年齢分布の違いを統計的に@ほせいし、年齢分布の条件を同じにすることで算出された死亡率のことです。集団間で比較可能にする方法です。今回の場合は、集団とは州のことであり、年齢構成という条件をすべての州で同じにした死亡率ということになります。

その結果、ソーシャルキャピタルと年齢調整死亡率の間には、きれいな相関関係が見られました。図2は、社会的不信頼と死亡率との相関図ですが、(1)社会的不信頼が高い州ほど死亡率が高いことを示しています。



出典: Kawachi I, Kennedy BP, Lochner K, et al. Social capital, income inequality, and mortality. American Journal of Public Health 1997; 87(9): 1491-1498. (論文より筆者が図を作成)

図2 ソーシャルキャピタルと死亡率の関係

(注) 図中のアルファベットはアメリカ合衆国の州名の略称

その後、より正確なマルチレベル分析という手法が広まり、死亡率、病気の発症率、入院率、主観的健康感（自分が健康であるという認識）、抑うつ、QOL（生活の質）など、多種多様な健康指標に対して、地域のソーシャルキャピタルが影響していることが明らかになっていきました。

カワチらの研究は、「地域のソーシャルキャピタルはそこに住む人々の健康状態と関連する」という④げんしょうを初めて明らかにした点に大きな⑤こうせきがあります。

（村山洋史『「つながり」と健康格差』，pp.80-91，ポプラ社，2018年より，一部改変）

問1 下線部①～⑤を漢字で表しなさい。

問2 作者は、下線部(1)「社会的不信頼が高い州ほど死亡率が高い」と述べている。では社会的不信頼と死亡率に因果関係があると仮定すると、それはどのような理由からだと考えますか。200字以内で述べなさい。

問3 地域におけるソーシャルキャピタルを高めるために必要なことを600字以内で述べなさい。